

日本音楽教育学会 ニュースレター - 第11号

Japan Academic Society for Music Education: News Letter No.11 2003 3/31

目 次

【巻頭言】今年一年をふり返る（村尾忠廣）	2
編集委員会からのお知らせ	3
第二学会誌創刊についてのお知らせ	3
平成14年度第4回常任理事会報告報告	4
日韓音楽教育・教科書セミナーの報告	6
住所・所属変更及び新入会員住所	8
編集後記	10

今年一年をふり返る

“ くらしきゼミナール ” と “ 第 32 回全国大会 ”

日本音楽教育学会 会長 村尾忠廣

会長に就任して一年が過ぎようとしています。ふり返ってみれば、素晴らしくも劇的な一年でした。くらしきゼミナール（8月）と第32回全国大会（金城学院大学，11月）は、実に刺激的なプログラムが組み込まれ、量的にも質的にも充実したものでした。両大会ともワークショップやデモンストレーションが企画され、“ 生きた ” 実践的教育研究に一步前進できたように思います。会長立候補にあたって公約として掲げておりましたことの一つは、リサーチと実践の両翼を拡大する、ということでした。昨年の総会では実践的な「新学会誌」の刊行が承認されました。片翼については具体的に踏み出せた、という実感がしています。もう一つの公約は、国際化 = 学会間交流協定を図る、ということでした。これにつきましても、昨年の総会で韓国音楽教育学会の会長、事務局長を招き、姉妹学会協定（交流協定）に調印いたしました。学会としては順調な一年だったように思います。

順調でなかったのは私の個人的なことです。くらしきゼミナールの時は、二度目の検査で膵臓腫瘍が確認された直後でした。隠しておりましたものの内心では死への恐怖におののいていたのです。ゼミナールが終わるのを待ってガンセンターに入院いたしました。手術は11月。会長として最初の大会に参加することは絶望的でした。が、手術前ということで、一時的に退院が許されました。その時が偶然にも全国大会と重なったわけです。ガンセンターを抜け出したの大会参加ということになります。大会

が終わるとすぐに手術のため再入院。膵臓の2/3と脾臓を摘出したしました。切り取って分析してみると何と膵臓腫瘍は良性、つまり癌ではなかったことが判明しました。膵臓は切り取ってみないと悪性（癌）か良性かはわかりません。なくなった膵臓を返してくれ、と叫びたい気持ちです。が、同時に膵臓ガン = 死の恐怖から解放された安堵感があります。いずれにしても劇的な一年でした。

会員のみなさまの間でもいろいろな噂が広まったことと思います。しかし、もうすっかり元気です。18キロのダイエットに成功した、と喜んでもいます。くらしきゼミナールや金城大会で元気そうに明るく装っていたのが何だか懐かしいようにさえ思えます。

先日、その“ くらしきゼミナール ” の事務局長をつとめました奥忍さんから余剰金について報告がありました。ゼミナールが予想外の大勢の参加者、そしてまた広告、ブース代金など予想外の収入で大幅な黒字になったそうです。ついては、100万円を今後のゼミナール運営のための基金として寄付したいという申し出でありました。三好委員長はじめ、ゼミナール実行委員のみなさまがいかにか財政的な不安の中で大変な御苦労、御努力をしてきたかよく知っております。それだけに、この申し出は本当に有りがたいことです。年度を締めくくる明るく、嬉しいニュースでした。末尾になりましたが、ここに会員を代表いたしまして感謝申し上げます。倉敷ゼミナール実行委員のみなさま、本当に有り難うございました。

編集委員会からのお知らせ

日本音楽教育学会編集委員会

編集委員会から『音楽教育学』の投稿に関するお知らせが2点あります。

1. チェックリストを掲載します

『音楽教育学』に投稿する際のチェックリストを裏表紙内側に掲載することにいたしました。どうぞご活用ください。

2. 海外文献の引用，転載等の許諾を得るための例文を用意しました

海外の文献から引用や転載が含まれている投稿論文については，原著の著作権所有者からの許諾が必要です。編集委員会では海外の著作権所有者から許諾を得るための例文（英語）を用意しました。必要とされる方は学会事務所までお問い合わせください。

第二学会誌創刊についてのお知らせ

二種類の学会誌刊行に関する検討委員会

委員長 坪能由紀子

平成14年11月9日に金城学院大学で行われた第33回総会において，今まで刊行されていた『音楽教育学』に加え，平成15年度から新たにもう一種類の学会誌を創刊することが決定されました。

年4回の学会誌の1号と3号は現行のまま，現在の2号と4号を新学会誌にあてる予定です。したがって創刊号は，平成15年8月頃に発行されることとなります。

その主な内容としては，現在の音楽教育がかかえているさまざまな問題についての特集を軸に，インタビュー，討論，実践報告的なもの，主張，提案，書籍紹介などを掲載する予定です。

執筆者は原則として会員とし，編集は現編集委員会があたることになっています。特集の編集は委員の中から毎回一人を選んで行いますが，場合によってはゲストエディターを依頼することもあります。特集以外は会員の投稿とします。また投稿原稿の採否は編集委員会が行います。

新学会誌の名称はニュースレターで平成15年3月31日締め切りで募集が行われています。これにもとづいて次回の理事会で決定される予定です。また投稿規定，及び投稿の締め切りについてはニュースレターあるいは現学会誌に掲載する予定です。

会員諸氏にはこれをご覧いただき，意欲的な投稿をお願いいたします。

平成 14 年度第 4 回常任理事会報告

日時：平成 15 年 2 月 9 日（日）13:00-

場所：東京学芸大学

出席：村尾・坪能・平井・筒石・奥・加藤・北山・重嶋・島崎・杉江・藤沢・丸山

【報告事項】

- 1) 第 33 回大会報告（北山常任理事）
33 回大会運営費会計報告
会員参加数 282 名，臨時参加数約 200 名
大会参加証明書を発行してはという意見
が出され，参考意見として検討すること
とした。
- 2) 第 34 回大会について
 - ・会場：神戸大学文学部，100 年記念館，
滝川会館
 - ・月日：10 月 18 日（土），19 日（日）
 - ・実行委員長：岩井正浩（神戸大学）
 - ・事務局長：五味克久（神戸大学）
 - ・テーマ「国際化社会の音楽教育」
 - ・基調講演：検討中
 - ・シンポジウム「国際化社会の音楽教育」
パネリスト：基調講演者
朴成泰（山口大学）
金城厚（沖縄県立芸術大学）
司会：加藤富美子（東京学芸大学）
コーディネータ：奥忍
 - ・プロジェクト研究，開催校企画を予定
（会場の関係でプロジェクト研究は最大
5 つの予定）
 - ・アトラクション：人形浄瑠璃の実演を計画中
- 3) 編集委員会（加藤編集委員長）
第 32-3 号に掲載した反論に対する編集
委員の見解を第 32-4 号に示す予定
- 4) 学会運営検討委員会（藤沢委員長）
選挙の方法を再検討し次回理事会で報告
する。

5) その他

- 30 周年記念音楽事典
今後の予定
2 月下旬：初校終了
6 月：2 校
7 月：3 校
10 月：出版
論説資料保存会
学会誌 30-1・2 に掲載された論文の転
載許可願いが論説資料保存会から出さ
れ了承した。
日本学術会議シンポジウム案内（筒石事務局長）
日時：平成 15 年 3 月 23 日（日）
会場：青山学院大学 10:00～16:30
テーマ：「学校の新しい可能性 - 教科
教育の再構築を求めて - 」
日本学術会議拠出金について（村尾会長）
シンポジウムを行うに際して講師への
謝金・交通費・会場費を加盟各学会に
拠出願いが送られ，これを了承した。

【協議事項】

- 1) 学会誌編集委員の委員交代について
10 名中 4 名が交替となるため，新任 4
名の候補者を選出した。
留任：安達真由美（北海道大学）
今川恭子（東京芸術大学）
佐野 靖（東京芸術大学）
坪能由紀子（高知大学）
南曜子（金城学院大学）
安田寛（奈良教育大学）
新任：4 名

- 2) 新学会誌の名称, 運営について
 名称案 ムジカ プラクティカ
 臨床音楽教育研究
 音楽教育実践研究
 応用音楽教育研究
 3月31日締め切りの会員からの応募を
 待って理事にアンケートを取る。
- 3) 学会ロゴマークについて
 3月31日締め切り
- 4) 第35回大会開催地について
 現在, 武蔵野音楽大学と交渉中, 次回理
 事会までに決定の見込み
- 5) 第8回音楽教育ゼミナールについて
 第7回ゼミナールが盛況に終わり残金
 あるのでゼミナール基金とし毎年の積立
 金を加算して今後開催の資金援助をする。
 ゼミナール専用の銀行口座を設けるとい
 う案が出された。第8回については, 現
 在検討中である。
- 6) 日韓音楽教育カリキュラム・教科書セ
 ミナーについて
 2月14日に行われるセミナーに後援依
 頼が出され, 承認された。
- 7) 入会規則の改定について
 現在の推薦者2名を1名とする。印鑑は
 今後も必要とする。施行は総会后となる。
- 8) 新入会員及び退会者の承認
 下記の正会員10名と再入会者2名, 申
 し出退会者2名を承認した。
- 3071 李 俊華 福岡工業大短大
 3072 岡本 安紀
 3073 市瀬 啓 兵庫教育大院生
 3074 大塚 典子 富山大院生
 3075 高塚 由美 つくば国際短大
 3076 秋田 郁 高田高
 3077 大澤 智恵 信州大院生
 3078 滝尻 絢子 東京音楽大院生

- 3079 李 穎 信州大院生
 3080 松本 徹 広島県立教育センター
 再入会
 1762 阿部 祐治
 2384 小山 朝子
 申し出退会者
 2120 原田 徹 江東区立東陽中
 2070 田中 真喜 立教女子学院中
 (平成15年2月9日現在, 1639名)
- 9) その他
 ニュースレターの編集当番の確忍について
 No.11号 平成15年3月末 藤沢
 No.12号 平成15年6月 坪能
 No.13号 平成15年8月 奥
 No.14号 平成15年12月 筒石
 No.15号 平成16年3月 藤沢
 事務局コピー機購入について
 10年使用のコピー機を新調することが
 承認された。購入予定は同機種で32
 万円が20万円の予定。
 日本音楽教育学会夏期ワークショップ
 (パイロット)の提案(坪能副会長)
 パイロット企画として15年8月の開
 催が提案され検討の結果承認された。
 企画: 企画担当常任理事・副会長
 講師: 原則として会員とし交通費のみ支払う
 予算: 独立会計とする
 会費: 数千円程度とする
 (3,000円位を検討中)
 広報: 学会ニュースレター, 雑誌等
 対象: 会員を優先とするが非会員にも呼びかける
 平成15年度第1回常任理事会
 4月26日(土)東京芸術大学
 常任理事会 13:30-
 理事会 15:00-

日韓音楽教育・教科書セミナーの報告

筒石賢昭（東京学芸大学）

昨年秋の総会で音楽教育研究の国際化を目指して、本学会は隣国韓国の音楽教育学会（Korean Music Education Society）と姉妹学会提携を結ぶことになった。その第一歩として、韓国の音楽教育学会会員で仁川教育大学助教授のソク博士（Moonjoo Seog）を迎えて、平成15年2月9日（金）16時～18時まで東京学芸大学音楽棟講義室で、日本音楽教育学会、韓国音楽教育学会の後援のもとに、韓国の最新の音楽教育の動向についての講演と教科書・マルチメディア等のデモンストレーションが行われた。ソク博士は1997年に告示され2000年から実施されている現行の第7次の学習指導要領に基づく教科書や指導書の編纂、マルチメディアの制作等にも関わった韓国を代表する若手グループの研究者の一人である。

参加者は会員の他、一般、首都圏の院生協議会のメンバー、留学生等で約50名であった。なお発表は英語で行われ、日本語解説は筒石が担当した。

講演のテーマは、「韓国における新カリキュラムについて」であった。

・カリキュラムの背景と学校教育の概要と新カリキュラム

韓国の学校制度は、日本と同じ単線型のシステムで6-3-3-4制である。カリキュラムと教科書については、「教育と人的資

源開発省」（The Ministry of Education and human resources Development: MOE）が教育の質を維持し、すべての学校に適用するため、教科書の標準を定めている。

（1）韓国におけるナショナルカリキュラムについて

韓国は建国（1945年）以来、過去6回のカリキュラム改定を行ってきた。現在のものは1997年に改訂された第7次のカリキュラムであり、初等、中等、高等学校に対応しており、MOEがカリキュラムを開発している。学校カリキュラムは、学校内外特に社会的、経済的な変化に伴って改訂せざるを得なかった。

第7次のカリキュラム構成の基本的なねらいは、

初等と基礎教育の充実

自ら学ぶ力の育成

学習者中心の教育

学校の主体性、自立的な活動、特別活動の重視

である。小学校から高等学校1年までは必修科目中心のカリキュラムが構成されているが、高等学校2、3年は選択科目中心のカリキュラム構成が組まれているということであった。

新カリキュラムは、2000年より、小学校1、2年で実施され、現在では全学年で施行されている。

カリキュラムと教科の関係として、特に韓国語、英語、数学、科学、社会科学に力

を入れ、学科の基礎・基本の学力の育成を目指している。

学校の自由裁量の時間が拡大し、児童・生徒の興味関心に対応する教育や創造性の教育を目指している。

日本と同じく学習内容が3割削減され、総合学習の時間を生み出している。

カリキュラムの質の向上を目指し、評価や実施の基準について言及されている。

・音楽教育カリキュラムの概要

(1) 7次の音楽科カリキュラムについて

1) 新たなビジョンについて

音楽科は小学校1～2年は「楽しい学校」と呼ばれる総合的な学習の中に組み入れられ、独立した教科として存在するのは、小学校3年以降である。音楽科は小学校3年～高等学校1年まで必修科目。高等学校2～3年は選択科目となっている。

高等学校の音楽の選択科目は、「音楽と生活」「西洋音楽と韓国の伝統音楽のための音楽理論」「音楽鑑賞」に分かれている。

カリキュラムのゴールとしては、様々な音楽、ジャンルの理解を通して感受性、音楽性、創造性を育成し、音楽文化に浸ることにより児童・生徒の文化的資質を高めることを目指している。

音楽科のカリキュラムを構成する上で、音楽の教育上の意義として、以下のように7点あげている。

音楽には美的な価値があり、知るに値するものである。

音楽は我々の文化遺産のうちで最も大切なものの一つである

音楽の可能性はすべての人にあり、これを十分に発達させなければならない。

音楽は我々に思考と感情に関わる創造性と自己表現することを与える。

音楽は自己発展や達成への扉を開くものである。

音楽学習と音楽表現は、個人の満足感や鑑賞のレベルを深めていく。

音楽は学校の教育システムの中で、最も力強く意義深いものである。

また、強調している点として次の5点あげられる。

バランスがとれ包括的で、系統的なカリキュラム

韓国の歴史的・文化的遺産を重視した音楽教育プログラム

実際の音楽を通じた学習

創造的で問題解決の技能を学習

妥当性があり、適切な評価

カリキュラムの内容として、「音楽理解」と「音楽活動」があり「音楽理解」とは音楽の様々な要素を理解する能力であり、「音楽活動」は、「歌唱」「器楽」「創作」「鑑賞」の4つの領域を指しているとした。

教育の概要と音楽科カリキュラムを示した後、最新の韓国の小学校から高等学校までの教科書とマルチメディア教材のCD-ROM版が紹介された。

感想として、韓国の音楽科教育カリキュラムは日本のものと重なる部分も多いが、特に韓国では伝統音楽の教育に力をいれており、教科書の35%が韓国の伝統音楽で占められていること、様々な伝統楽器や民謡等のCDによる教材化が行われており、このことは日本の音楽教育でも参考になる点がある。

講演の後、日韓の音楽教育の比較やこれに関わる教師教育、韓国のわらべうた等について活発に意見交換が行われた。

住所・所属変更及び新入会員住所（2003年2月承認まで）

2000年度版 No.8 3月20日現在

ニュースレターweb版では
個人情報に関する記事は削除しています。

*** 編集後記 *****

年度末のあわただしさが一段落して、新年度開始までつかの間の安息の何日間という日を、皆様も送っていることでしょう。ついに戦争が始まってしまいました。「世界で初めて平和憲法を持つ国」と小学校で習ったはずなのに、いつの間にか戦争を支持し、そのための輸送も手伝うようになるとは、当時の小学生だった私には納得できないのですが。それはさておき、不況がいっこうに改善されません。ある本の中に、世界の経済システムが変わったのに、日本は相変わらずの金融政策で切り抜けようとしている、とありました。時代の変化が激しくて、本物や正体が分からなくなっています。21世紀になって、人間は大変な時代に遭遇しているのではないかという気がします。（藤沢章彦）

第7号から編集とレイアウトを担当しています。主な作業は、いただいた原稿を見ながら読みやすいレイアウトでページ合わせをすることですが、今回はパートナーの藤沢さんのアドバイスで、本文の文字を2ポイント大きくしてみました。若干レイアウトのデザイン的美しさには欠けるものの、たしかに大きな字は読みやすいです。実は、私も2年ほど前から小さい字を読むときは眼鏡を外すようになっています。もちろん遠近両用の眼鏡もあるのですが、これが困ったことに、遠近の境目あたりにある譜面台の楽譜が見えにくくなるのです。あちらを立てればこちらが立たずといった具合に、昨今の国立大学教育学部の統合問題と同じでなかなかうまくいかないものです。（北山敦康）

【日本音楽教育学会役員（2002-2004年度）】

会長：村尾忠廣 副会長：平井建二・坪能由紀子

常任理事：筒石賢昭（事務局長）、奥忍・藤沢章彦・北山敦康（総務）、

加藤富美子・島崎篤子・丸山忠璋（企画）重嶋博・杉江淑子（会計）

理事：浅井良之（北海道）、丸林実千代（東北）、伊藤誠・今川恭子・

小山真紀・阪井恵・山本文茂（関東）、伊野義博（北陸）、南曜子（東海）、

中原昭哉・竹内俊一（近畿）、野波健彦・吉富功修（中国）、

田邊隆（四国）、木村次宏（九州）

【事務局住所】 184-0015 東京都小金井市貫井北町 2-5-22 ハイツシーダ 1-102

【私 書 箱】 184-8799 東京都小金井郵便局私書箱 26

Tel/Fax : 042-381-3562 e-mail : onkyoiku@remus.dti.ne.jp

<http://www.remus.dti.ne.jp/onkyoiku/index.html>